



日時 平成30年7月27日(金) 13:30~16:30
場所 市民交流プラザふくちやま
テーマ 事例から見る支援①「思春期・青年期における問題行動への対応」～愛着から考える～
講師 京都少年鑑別所 精神科医 定本 ゆきこ 先生(府専門家チーム)

今回の公開講座は、事例から見る支援シリーズの第1回目として、「思春期・青年期における問題行動への対応」～愛着から考える～をテーマに、京都少年鑑別所の精神科医、定本ゆきこ先生にお話しをしていただきました。本講座には、小学校・中学校・特別支援学校・高等学校教員及び福祉関係者あわせて70名の方々が受講されました。乳幼児期から思春期・青年期までのライフステージごとの特徴や大切にしたいポイント、親として教師としての適切な対応について、具体的に分かりやすく御講義いただきました。また、問題行動の背景を関係者で正しくアセスメントし、チームで適切な対応、介入していくことの大切さを学ぶことができました。



【受講者の感想】

発達課題を理解した上での支援が大切だと改めて思いました。忙しさの中で大切なことを見落としてしまったり、ふさわしくない支援をしてしまったりすることがあり、丁寧なアセスメントをしていきたいと思いました。子どもの課題を「この家庭だから」ととらえるだけでなく、保護者支援をよりよく行い、正のループがつけられるようチームで支援していきたいです。北部会場で講座をもっといただけて大変ありがたかったです。(小学校教員)

何年か継続してみたり、兄弟姉妹を知っていることで「思い込み」のようなものが入ってしまうところが教師にはあると思います。その色眼鏡をはずし、その背景をしっかりと見つけ理解することの大切さを改めて感じました。とても反省もしました。またどんな場面でどんな行動になるかなどを分析して対応や支援をしていかなければいけないと思いました。大変だけどその子の今後の生き方が素晴らしいものになるよう、一人の教師、大人として向き合い、サポートできるよう頑張っていきたいと思いました。(中学校教員)

大変感動しました。全ての話に対して今までの指導や対応について考える機会となり、どの話も参考になりました。我々先生の一言が、子どもの人生を変えるきっかけになることについて、改めて考えさせられました。(高等学校教員)

先生の前向きで肯定的な姿勢が困っている子ども達だけでなく、周囲の子ども達、周囲の大人、チーム学校の共に頑張る大人にとってもどれだけ救いになるかを改めて感じました。熱心になるがゆえにはまりこむ負のループ、親としても教員としてもいつも戒め、正のループの流れにするための努力を、何より子どもに対する正しい理解から始められる教員でありたいと感じました。元気の出るお話でした。(特別支援学校教員)

とてもわかりやすく、困難なケースの事や、自分の生活のことなど思いうかべながら聞かせていただきました。どんな支援をしていけばよいか、今日の先生のお話をヒントに、多くの先生方を巻き込んで、みんなで知恵を出し合える環境をつくっていききたいと思いました。(医療、福祉関係者)